



2025年3月期 決算および 2026年3月期 事業計画説明会

2025年5月28日
株式会社 大阪ソーダ

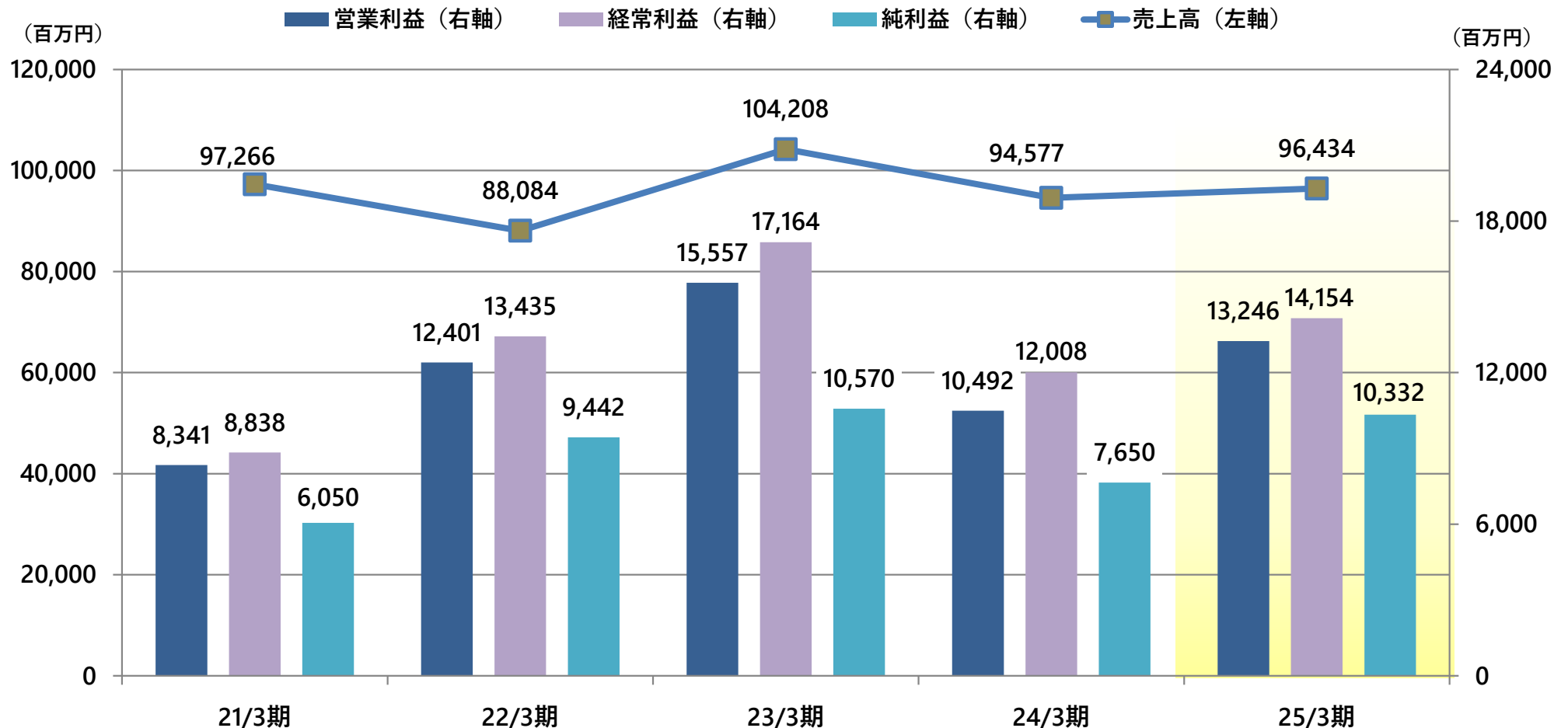


2025年3月期 業績

業績推移（21/3期～25/3期）

- 25年3月期は増収増益を達成
- 23年3月期に次ぐ利益水準で、当期純利益は100億円を上回る

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(※) 22/3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用

2025年3月期 概況

- 24年6月末の生産トラブル解消とヘルスケア事業の伸長により対前年を上回る
- 市況回復の遅延で計画は未達

(百万円)	24年3月期		25年3月期		増減		計画	達成率 (%)	計画差異
		構成比 (%)		構成比 (%)	金額	率(%)			
売上高	94,557	—	96,434	—	1,877	2.0	103,000	93.6	▲6,566
営業利益	10,492	11.1	13,246	13.7	2,754	26.2	16,000	82.8	▲2,754
経常利益	12,008	12.7	14,154	14.7	2,146	17.9	16,800	84.3	▲2,646
当期純利益	7,650	8.1	10,332	10.7	2,682	35.0	11,500	89.8	▲1,168
1株当たり 当期純利益	60.17円	—	81.54円	—	—	—	—	—	—
海外売上高	32,327	34.2	36,184	37.5	6,203	19.2	—	—	—

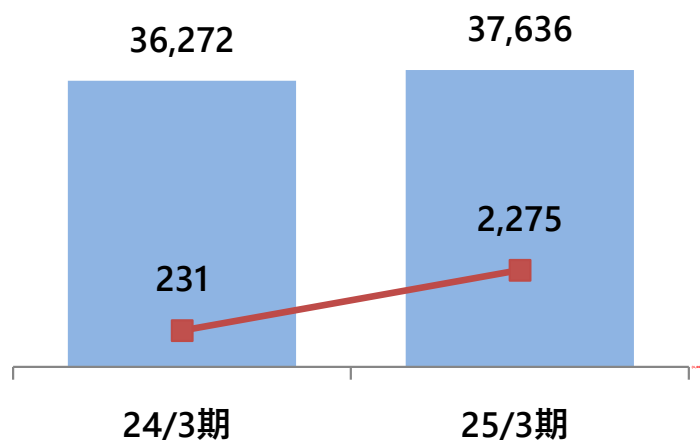
前提条件	24年3月期	25年3月期
U S \$ / 円	143円	152円
ユ - ロ / 円	155円	163円
ナフサ (円/KL)	69,000円	75,800円

(※) 2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。前年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算出しています。

セグメント（基礎化学品）

- 基礎化学品全般において、生産トラブル解消により生産・販売が回復
- クロール・アルカリ製品は、かせいカリを除き数量は増加したものの、かせいソーダ市況が影響
- エピクロルヒドリンは、海外市況が軟化するも、エポキシ樹脂の需要が若干回復し数量が増加

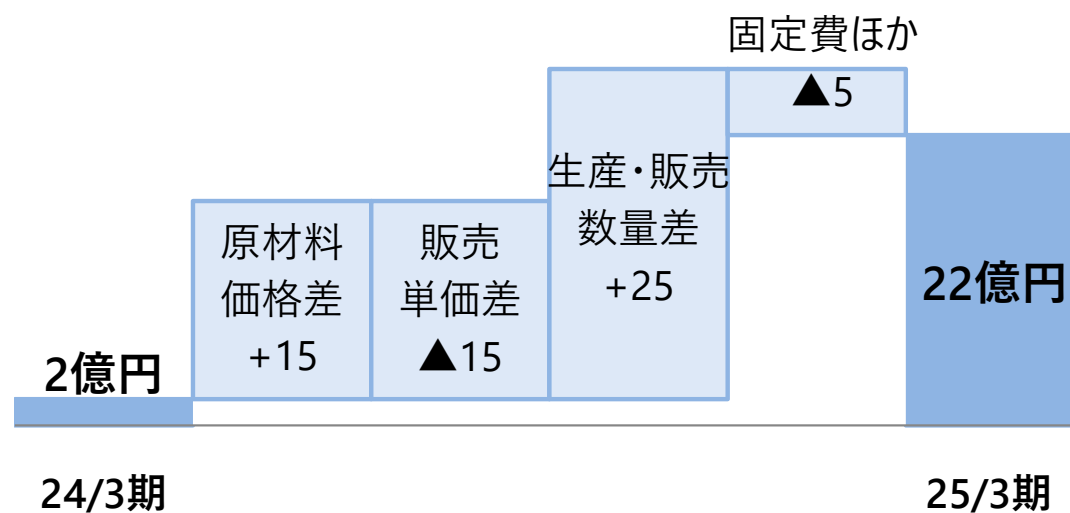
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +13億円）

クロール・アルカリ	+0
エピクロルヒドリン	+13

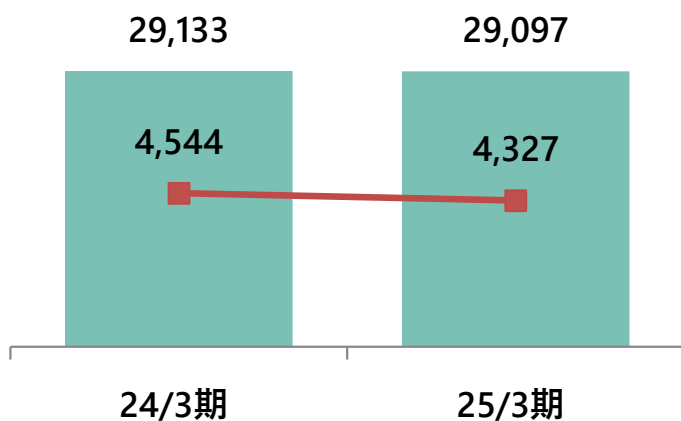
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、エピクロルヒドリンゴムでは自動車生産台数の減少、アクリルゴムではデボトル増強工事ともなう出荷調整が影響
- 合成樹脂は、海外向けUVインキ用途の需要が堅調に推移
- アリルエーテル類は、生産トラブルによる出荷調整の解消に加え、中国の塗料用途を中心にシランカップリング剤の需要が堅調に推移するも市況は軟化

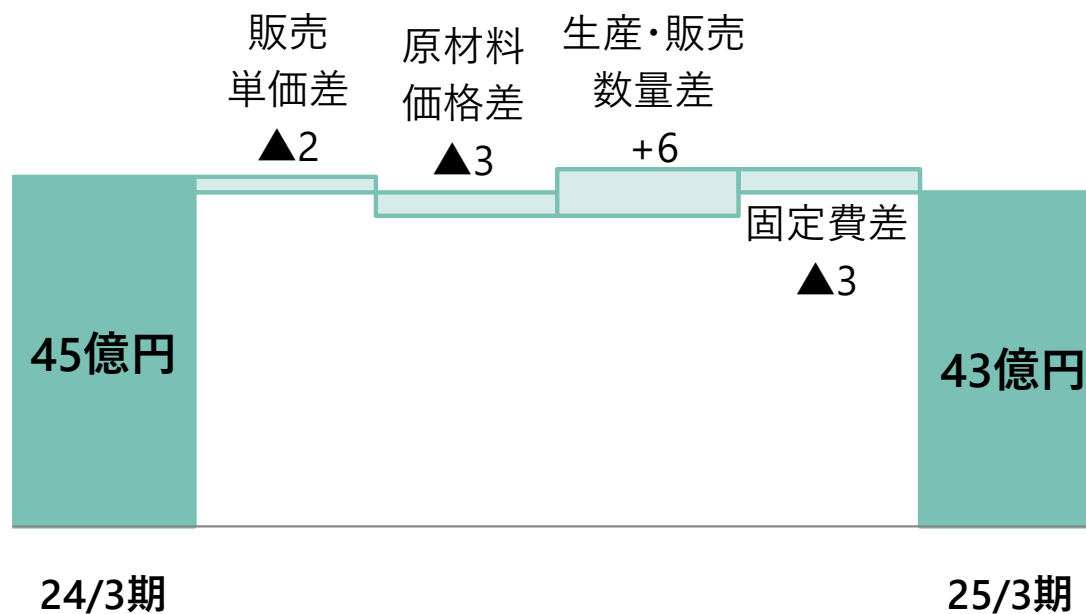
売上高 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +0億円）

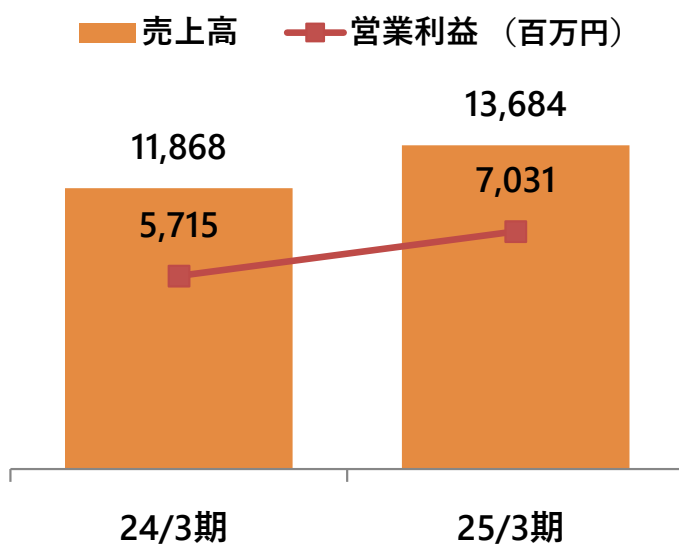
合成ゴム・合成樹脂	+5
アリルエーテル類	+7
その他	▲12

営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、医薬品精製材料では、欧米、アジア向け糖尿病治療薬用途等の需要が拡大
- 医薬品原薬・中間体は、不眠症治療薬中間体、筋疾患治療薬原薬の販売が拡大する一方核酸医薬原薬、抗結核薬中間体の販売は減少

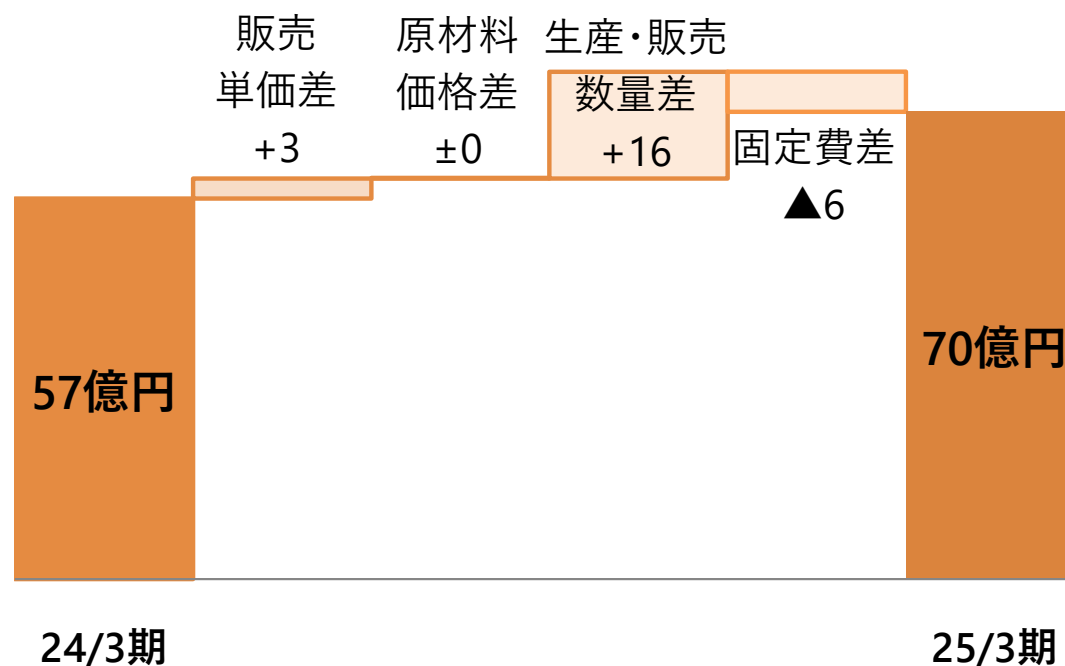


売上高増減（前期比 +18億円）

クロマト＊	+19
医薬品原薬・中間体	▲1

＊ 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

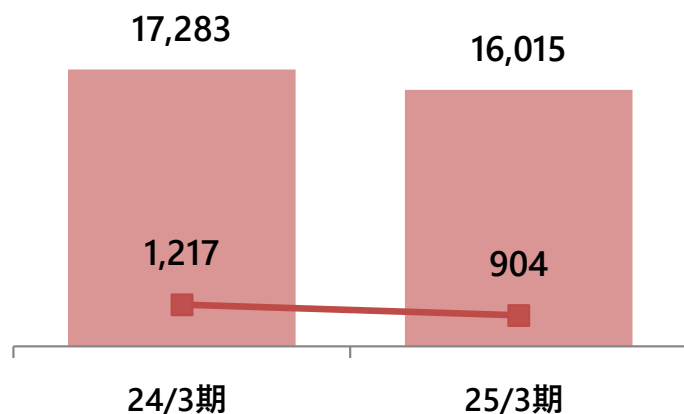
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- 特殊ポリマー材料では、感光性樹脂等の印刷関連商材および海外向け販売が好調に推移
- 機能製品では、ガラス繊維、電子材料および自動車向け商材を中心に需要が回復
- 一方、22年度末に撤退したプラント事業等の影響を受けた

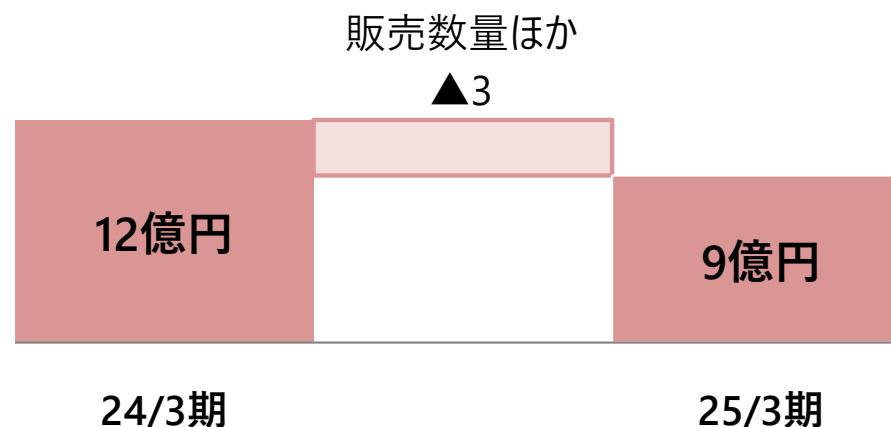
売上高 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 ▲12億円）

特殊ポリマー材料	+4
機能製品	+1
プラント他	▲17

営業利益要因（億円）



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 収益体質の強化により自己資本比率は75.1%へ上昇、引き続き高水準を維持
- 安定した財務基盤のもと、中期経営計画に基づく大型投資、維持・効率化投資を実施
- 営業CFは過去最高となり、キャッシュ創出力がさらに向上

(百万円)	23/3期	24/3期	25/3期	前期比
総資産	138,029	150,541	153,935	3,394
純資産	99,543	109,765	115,596	5,831
自己資本比率	72.1%	72.9%	75.1%	2.2%
有利子負債	7,664	7,630	7,635	5

(百万円)	23/3期	24/3期	25/3期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,354	8,597	17,049	8,452
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,380	▲4,263	▲8,135	▲3,872
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲4,596	▲3,199	▲4,221	▲1,022
現金および現金同等物	36,843	38,432	43,314	4,882



2026年3月期 業績予想

2026年3月期 事業計画

- 当期は、各段階利益において過去最高の更新を計画
- 生産トラブル影響の解消に加え、ヘルスケア事業の伸長による利益拡大を織り込む
- 一方、中国経済の先行き懸念や物価上昇の継続、米国の関税措置の影響による世界景気の落ち込みにともなう市況回復の遅延を懸念

(百万円)	25年3月期		26年3月期計画		増減	
		構成比(%)		構成比(%)	金額	率(%)
売上高	96,434	—	102,000	—	5,566	105.8
営業利益	13,246	13.7	17,000	16.7	3,754	128.3
経常利益	14,154	14.7	18,100	17.7	3,946	127.9
当期純利益	10,332	10.7	12,300	12.1	1,968	119.0
1株当たり 当期純利益	81.54円	—	97.70円	—	—	—
海外売上高	36,184	37.5	37,700	37.0	1,516	104.2

前提条件	25年3月期	26年3月期計画
U S \$ / 円	152円	145円
ユ - ロ / 円	163円	155円
ナフサ (円 / KL)	75,800円	69,000円

セグメント別売上高・営業利益計画

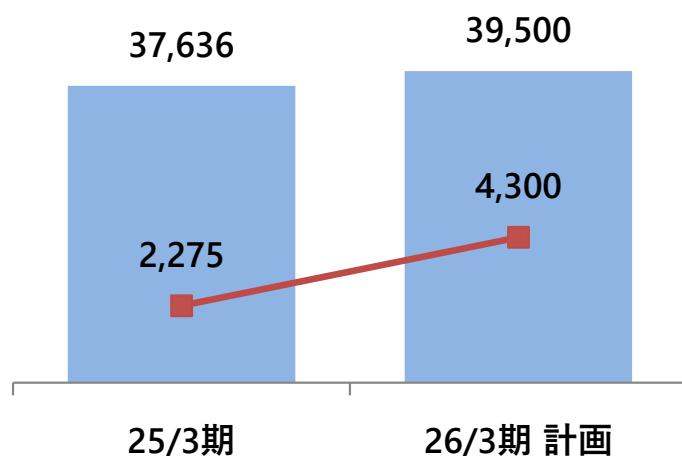
- 基礎化学品は、生産トラブルを解消、販売数量が増加するも、市況は足元並みを想定
- 機能化学品は、アリルエーテル類の市況回復遅延、自動車生産台数はやや回復基調を想定
- ヘルスケアは、引き続きシリカゲルが需要拡大、下期以降に松山・尼崎の増産効果を織り込む

		25年3月期			26年3月期計画			増減		
(百万円)		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	基礎化学品	18,403	19,233	37,636	19,700	19,800	39,500	1,297	567	1,864
	機能化学品	15,963	13,134	29,097	14,500	15,200	29,700	▲1,463	2,066	603
	ヘルスケア	6,172	7,512	13,684	6,300	8,300	14,600	128	788	916
	商社部門ほか	9,627	6,388	16,015	9,700	8,500	18,200	73	2,112	2,185
	合計	50,167	46,267	96,434	50,200	51,800	102,000	33	5,533	5,566
営業利益	基礎化学品	1,047	1,228	2,275	2,200	2,100	4,300	1,153	872	2,025
	機能化学品	2,560	1,767	4,327	2,300	2,800	5,100	▲260	1,033	773
	ヘルスケア	3,424	3,607	7,031	3,600	4,200	7,800	176	593	769
	商社部門ほか	570	334	904	600	600	1,200	30	266	296
	全社・消去	▲635	▲658	▲1,293	-700	-700	-1,400	▲65	▲42	▲107
	合計	6,967	6,278	13,246	8,000	9,000	17,000	1,033	2,722	3,754

セグメント（基礎化学品）

- クロール・アルカリ製品は、安全・安定稼働の継続と地域密着型営業の強化を図る
- エピクロルヒドリンでは、国内外で販売を強化しシェア拡大を目指す

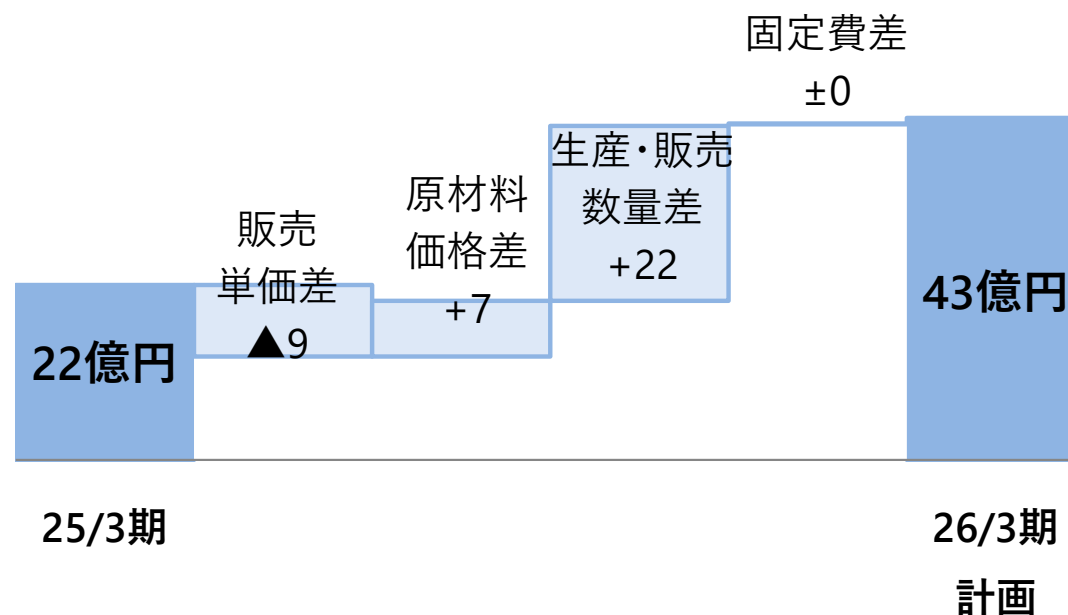
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +18億円）

クロール・アルカリ	+4
エピクロルヒドリン	+14

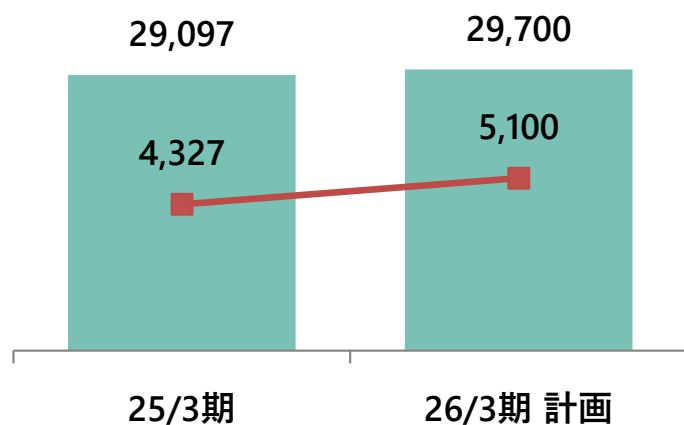
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車生産台数のやや回復基調を見込む、前期に強化したアクリルゴムの設備能力を活用し、国内外で新規採用の獲得を図る
- 合成樹脂は、欧米・アジア市場での拡販によりUVオフセットインキ向けのシェア拡大を図る
- アリルエーテル類は、中国市場での販売を強化し、さらなるシェア獲得を目指す

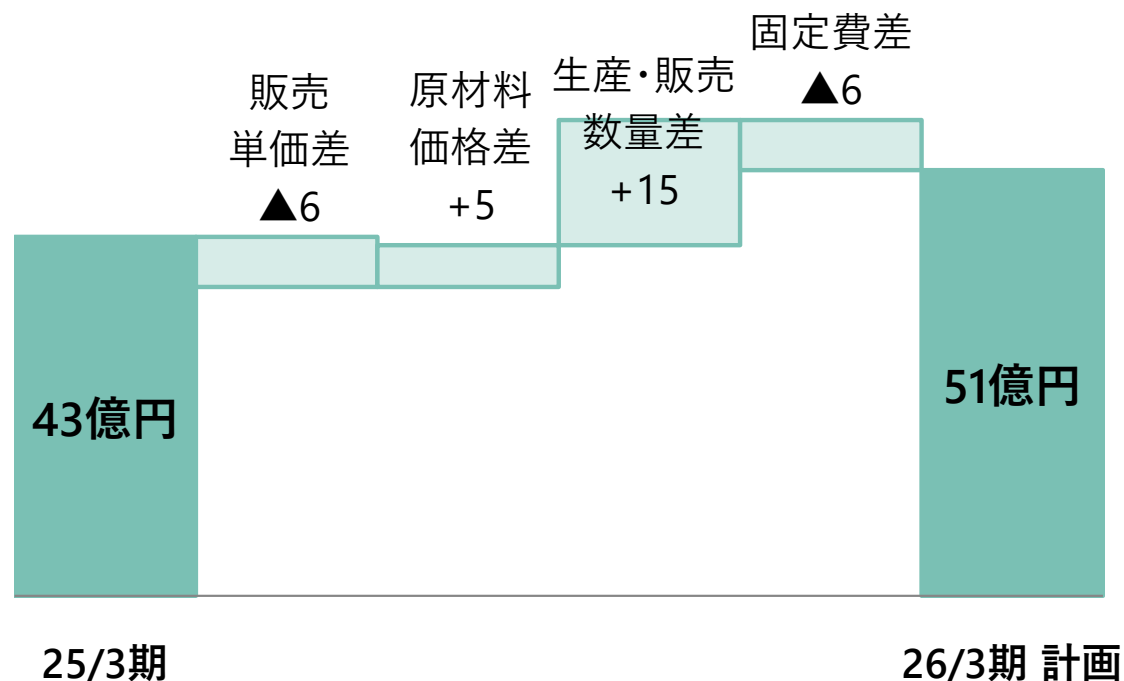
売上高 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +6億円）

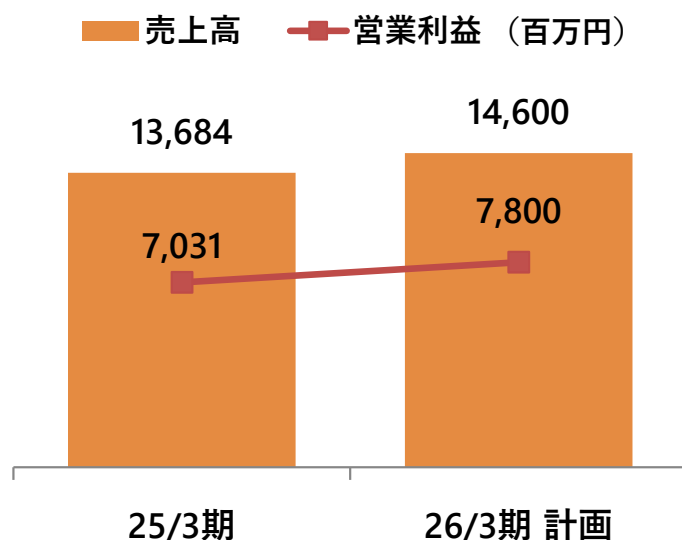
合成ゴム・合成樹脂	+12
アリルエーテル類	+1
その他	▲7

営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、糖尿病治療薬ならびに肥満治療薬向けの需要増加が引き続き拡大
 - 松山工場の新製造設備は、25年7月に営業生産開始を早期化
 - 尼崎工場増強工事は、当初計画から1年前倒しとなる25年9月完工を予定
 - 下期以降の増産効果による収益への貢献を織り込む
- 医薬品原薬・中間体は、製造・品質保証体制を強化し、新規案件の獲得を図る

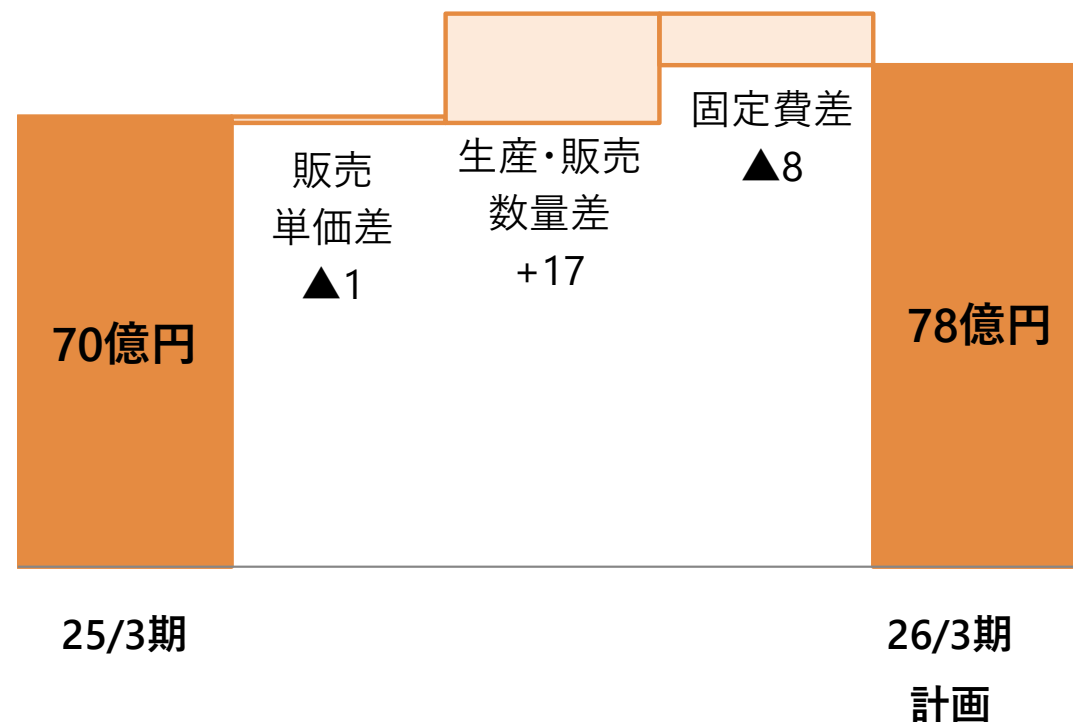


売上高増減（前期比 +9億円）

クロマト＊	+8
医薬品原薬・中間体	+1

＊ 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

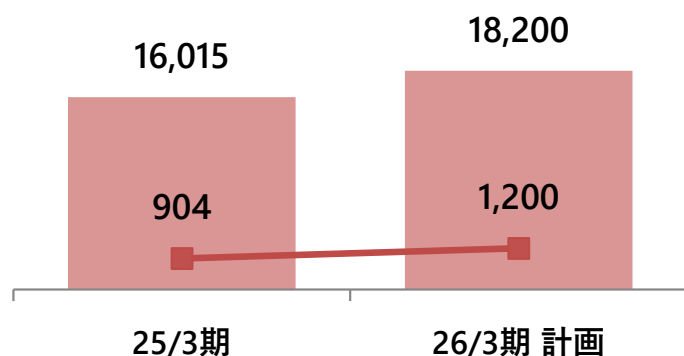
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- 基礎化学製品は、商材のラインナップ拡充による拡販を計画
- 機能製品では、ガラス繊維等で電子材料関連を中心とした堅調な需要を見込む
- コンシューマープロダクツでは、企画商品の販売増や半固体電池の販売を織り込む

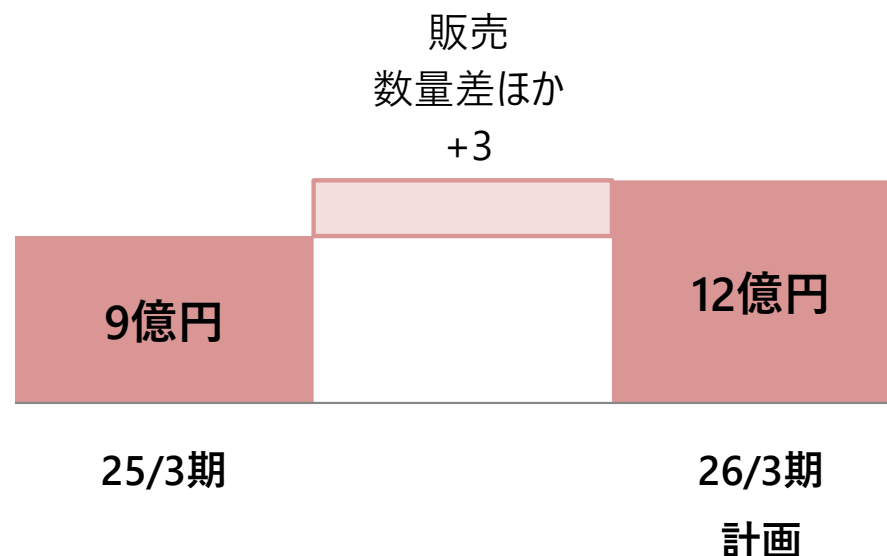
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比 +21億円）

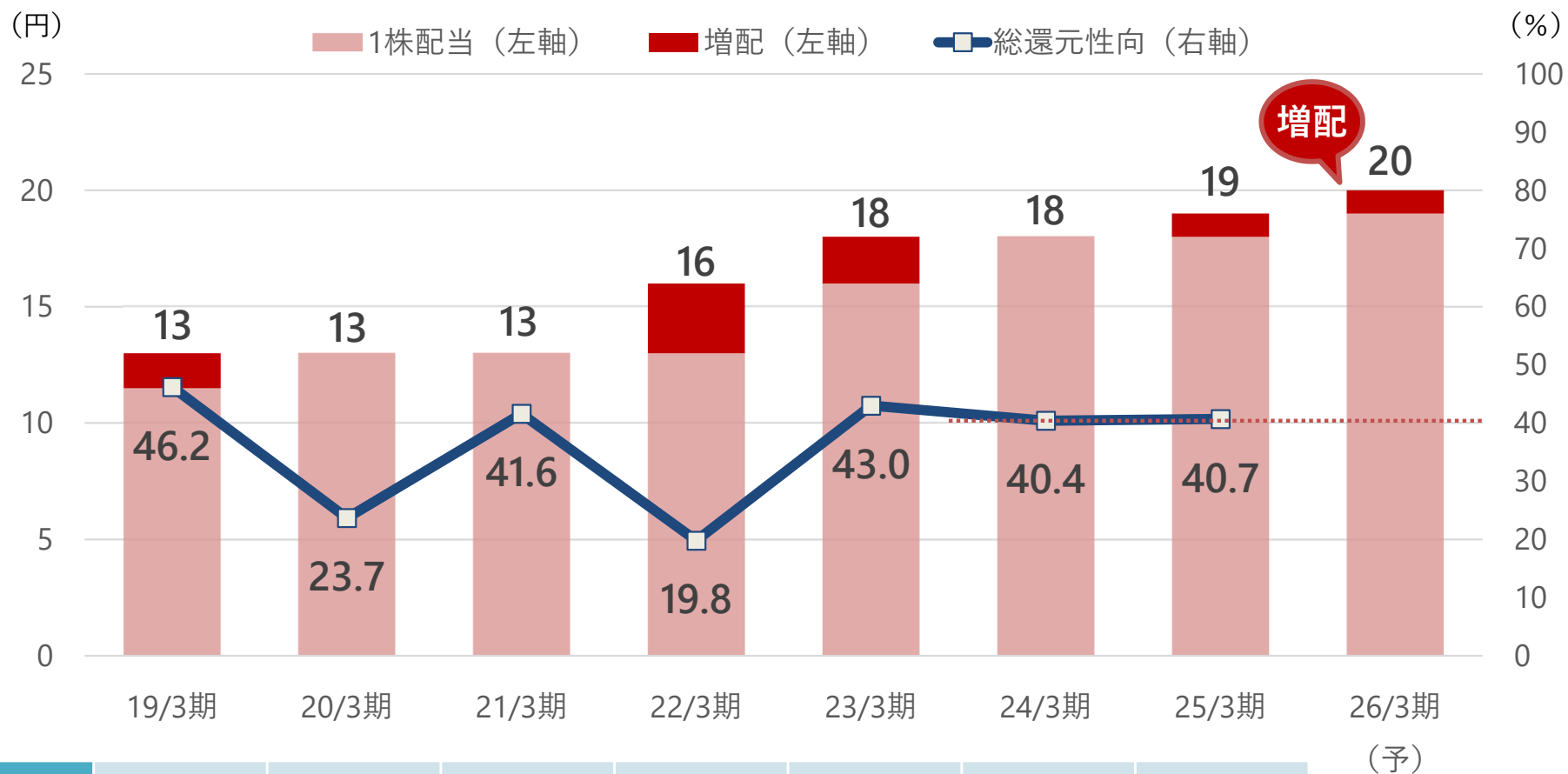
基礎化学製品	+5
機能製品	+6
コンシューマープロダクツ他	+10

営業利益要因（億円）



株主還元

- 中期経営計画期間（2023～2025年度）は、総還元性向40%を目指す
- 25年3月期は、年間配当19円、自己株式取得（18億円）を実施（総還元性向40.7%）
- 26年3月期は、1円増配し、年間配当20円とする方針
- 株主還元の強化を目的として、26年3月期より累進配当を導入



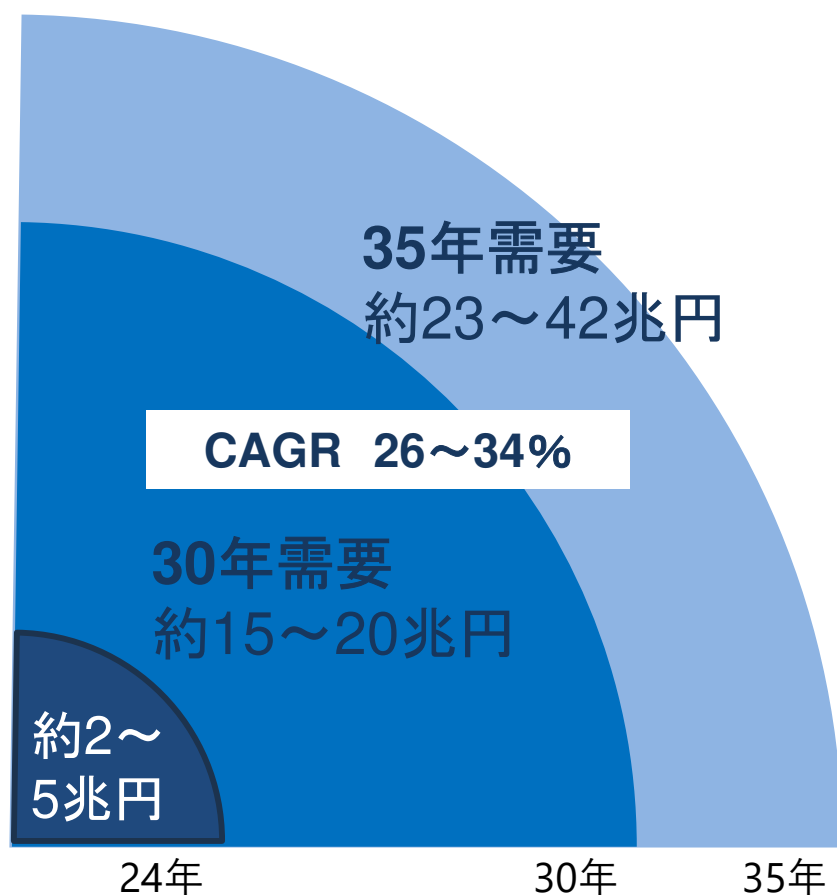
自己株式 取得額	16億円	－	10億円	－	22億円	8億円	18億円
-------------	------	---	------	---	------	-----	------



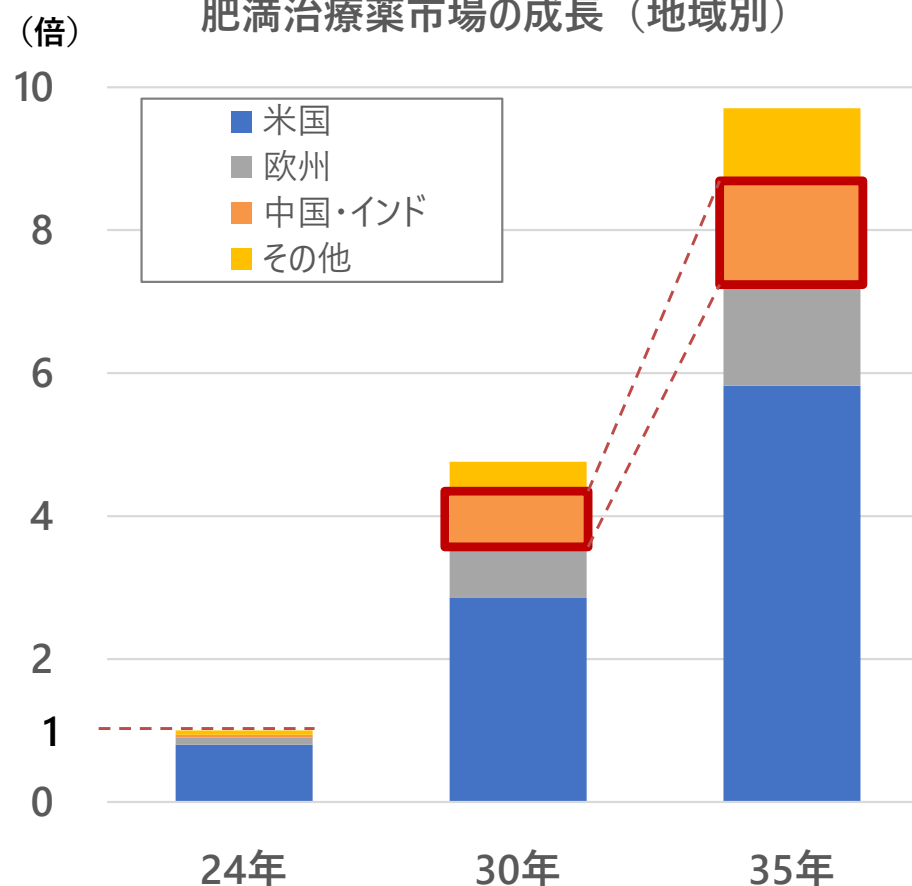
シリカゲル増強計画の進捗

肥満治療薬市場の成長ポテンシャル

- シンクタンク等は、肥満治療薬の需要が2035年までに約23～42兆円に拡大すると予測
- 当社独自の市場調査と各社の需要予測を踏まえ、2035年までのCAGRを26%以上と想定
- 地域別では、肥満人口が多く治療意識が高い米国が大半を占める



肥満治療薬市場の成長（地域別）



肥満治療薬の開発動向

- 現在、減量効果の高い中分子のGLP-1受容体作動薬（注射薬）が主流
- GLP-1受容体作動薬の新興国の開発潮流は注射薬が先行
- GLP-1受容体作動薬の低分子経口薬では、服用方法や減量効果の点で課題も

肥満治療薬

GLP-1受容体作動薬

✓ ホルモンに作用し食欲をコントロール

（低分子/経口薬）

- 減量効果は5%前後
- 服用方法に制限あり

（中分子/注射薬）

- 短期間で高い減量効果（20%）
- 欧米の先行メーカーが独走
- 新興国メーカーが開発を加速

（中分子/経口薬）

- 減量効果に個人差あり
- 欧州メーカーが先行

※点線枠＝開発中

脂肪吸収抑制薬

- ✓ 腸内で脂肪の吸収をコントロール

食欲抑制薬

- ✓ 脳の満腹中枢に作用し食欲をコントロール

シリカゲルの増強計画と需要動向

- 松山シリカゲル製造設備は、営業生産を当初計画より半年前倒し
- 尼崎工場第2期増強は、工程改善による生産性向上により、2025年9月に完工予定
- 次期増設計画の方針決定時期についても、2025年内に前倒しを検討

旺盛な需要環境を踏まえた 当社の対応

- 松山工場新設備の営業生産開始時期

当初計画：2026年年初

➡ 2025年7月へ半年前倒し

- 尼崎工場の工程改善により生産性が向上

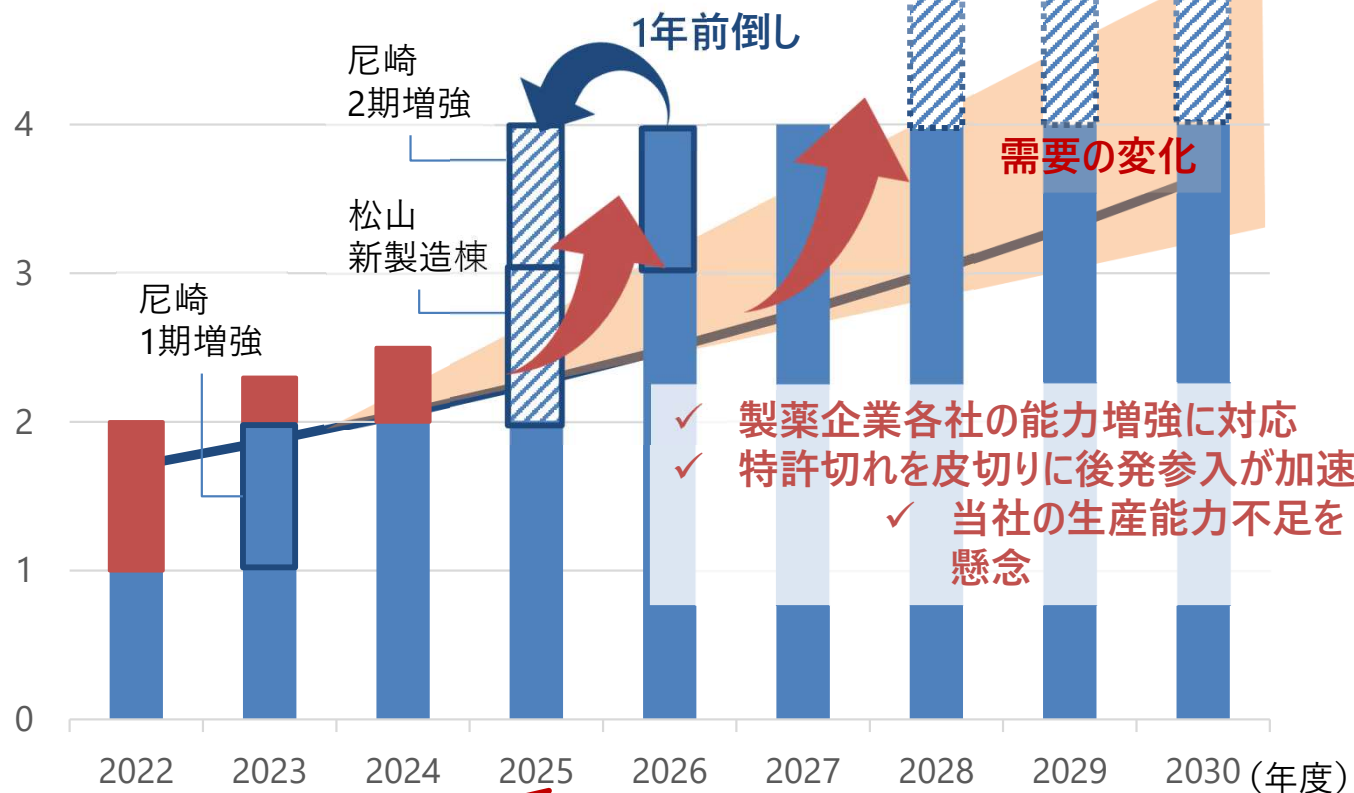
当初計画：2026年秋

➡ 2025年9月へ1年前倒し

(設備能力：倍)

■ 設備能力
■ 運転対応

▨ 能力増強
— 需要（年率10%）



次期増設方針を決定予定

企業認知度の向上に向けて

- 企業認知度の向上を目的として、GW期間中にテレビCM（西日本）ネット媒体で放送実施
- 創立110周年を迎える2025年10月には、テレビCM（西日本）ネット媒体に加え、タクシー広告を関東・関西エリアで実施予定
- 人的資本戦略の一環として人材獲得の推進を視野に入れ、「化学のキープレイヤー」として当社の認知拡大を目指す



企業イメージCM「実は化学のキープレイヤー篇」



おかげさまで110周年

110周年記念ロゴ

実は化学の
キープレイヤー♪

OSAKA SODA



当社ウェブサイト



YouTubeチャンネル

CM動画は、当社ウェブサイト、YouTubeチャンネルからご覧いただけます。



お問合せ先： 株式会社 大阪ソーダ
経営企画部 広報グループ
TEL：06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。